

知恵の樹

No. 181 2014. 2. 12

町田の図書館活動を
すすめる会

事務局：町田市森野 3-1-12 増山方
〒194-0022 FAX 042-722-1243

♪ 手をつなごう、みんなで手をつなごう ♪ 東大和市 蓼田 明子

私は東京の北の県境にいて、南の県境の皆さんの活動を「いつもすごいなあ！」と見ています。内容たっぷりて欠かさず発行の「知恵の樹」、田井氏講演会や見学会など多彩な学習活動、図書館協議会やとしょかんまつりでの図書館との関係づくりなど、そのエネルギーに元気をもらっています。

さて、この文章は、この冬の愛読書、不屈のジャーナリスト・むのたけじ著『99 歳一日一言』岩波新書を引用しながらつづってみます。これはむの氏からの 365 のメッセージ集です。

感謝！「特定秘密保護法反対」賛同

今回は昨年 11 月末に発表したアピール「未来の子どもたちに禍根を残す「特定秘密保護法案」に反対します」がご縁です。アピール文に会として、いち早くご賛同いただき、ありがとうございました。1 月上旬現在、95 名、5 団体の賛同者です。全国から声が届き、現役・元図書館員(公共、学校、大学、資料室)を中心に、住民、図書館協議会委員、図書館学教員、作家と多彩な顔ぶれとなりました。

「無数のわたしとあなたで構成されているみんなは、歴史の主体だ。みんなのため、と口で繰り返しながら個々人の立場を無視または軽視する態度を許してはならぬ。」

3.11 で私の中にも激震が

名前を公表してアピール文を出す、そんなことを自分がするとは思ってもみませんでした。「嫌だな」と思う、誰かがやってくれたら付いていく…社会の不穏な出来事にはそんなふうに対処してきました。でも、3.11 を経験し、東電福島第 1 原発事故を経

験した後、「嫌だなあ」と思っているだけでは、我が身と家族は守れない、子どもと次の世代に責任が取れない、と痛感してしまったのです。原発が次々爆発する様子をテレビで見ながら、小中学生だった息子たちに「後始末に何年もかかるから、色々研究開発して。」と言った時、長男の一言「大人の責任でしょ！」は痛烈でした。

あの時から、「考えているだけではダメ。その時々、できることを精一杯やる。」を心がけることとしました。たとえアリバイ作りと見られても、「せめて加担しなかった。」と自分を慰められるように。そして、もう一つ、「思っているだけでは伝わらない。隣りの人に話してみる」ことにしたのです。どちらも意外なつながりを生み、不思議なひろがりとなり、原発や特定秘密保護法など、それぞれを一緒に考える仲間ができました。

「はじめにおわりがある。抵抗するなら最初に抵抗せよ。途中で泣くな。」

「てをつなごう」、もちろん図書館でも！

小文のタイトルは、何を書こうかと考えた時、ふと口を突いて出た童謡「手をつなごう」の一節です。私の気分は、今、まさにこれなのです。

余談ですが、この曲の作詞は『ぐりとぐら』でおなじみの中川李枝子氏とは、今回、ネット検索で知り、ほんわかした気分になりました。

特定秘密保護法施行、憲法変更、原発再稼働など、政府の提示する方向は、私たち市民の暮らしを豊かにするとは思えません。それなのに、私たち個人は微力で、「なんともならない」と思ってしまうがちです。でも、想いを同じにする人は案外近く

に大勢いるもの。そのことは今の仕事をする中で確信となりました。今の職場・公民館は自然とそのことに気付けるところでした。講座やイベントで興味が合う人を集める施設のせいかもしれません。ちょっとの勇気で話題にする、行動する、そこから周りの人との距離感がぐっと縮まることがあります。だから、皆さんにも「てをつなごう」と呼びかけたいのです。

図書館の世界も同じです。市民と図書館員・行政が責任を持って図書館を育てるために、もっと手をつなぎ合えたらと思うのです。最近、よくマスコミに図書館が登場します。でも、「地域にあって、過去と今と未来をつなぐ情報のカナメ」という本質的図書館像をきちんと伝えている記事は少ないです。神奈川県海老名市の1月1日号市報(市HP参照)に、計画中的新図書館予想図があります。既視感たっぷり、まるでチェーン店です。目指すものがそこなので、さもありません。それは見た目とは言え、図書館法第3条「土地の事情及び一般公衆の希望に沿い…」と合致するのでしょうか？平田オリザがいう「文化の自己決定能力」を持たずに、付加価値を自ら生み出せない地域は、簡単に東京資本に騙されてしまう。『新しい広場をつくる』は、図書館にも当てはまります。

豊かな図書館像を共感できる人の輪をもっと広げたい。社会状況を判断するために「民主主義の砦」として、子どもも大人も心身健やかであるために「心の栄養素を提供」できる、市民が自分らしく生きていくための「知恵袋」として etc…図書館は使い込んで、みんなで「こうりたい」とイメージを膨らませて、実現できる工夫を重ねてこそ、その町になじんで生きてくる、そんな「なまもの」です。

「てをつなごう」はわが町にとどまりません。20年程前、埼玉集会という年1回のイベントがありました。文字通り、埼玉県内の図書館利用者と職員が一緒に委員会方式で準備をし、全体会・分科会で図書館について1日中語り合うのです。参加した帰り道に「いつか多摩地域でも…」と同行の人と話していました。多摩地域の図書館友の会の人たちや図書館協議会の委員が集う…そんなことをしたいと、ずっと考えています。まずは事前告知して、多摩地域図書館大会の終了後に色々な自治体の人たちとお茶を一杯なんて、どうでしょう？もちろん、職員もその輪に入って、みんな一緒にこの指とまれ!!

「みんなでやる、とは号砲での同時スタートなんかではない。やれるところ、やりたいところからどんどんやることだ。」

図書館は何をすところか — 新しい1年のはじめに 守谷信二

安倍政権の特定秘密保護法をめぐるのは、昨年来多くの団体・グループから反対や慎重な審議を求める「声明」が相次いで出された。市民レベルのデモや街頭アピールも各地で盛んに行われ、近年にない盛り上がりを見せている。こうした社会の大きな動きの中で、果たして図書館は何をすべきなのかと考えたとき、かつて日本図書館協会の事務局長だった有山崧(ありやま・たかし)氏が、60年安保の年に「図書館雑誌」(1960年9月)に書かれた一文のことを思い出した。

「図書館は何をすところか—国会デモに思う」と題された文章で、政治状況に翻弄される当時のマスコミ報道のあり方を批判し、同じ「information service 機関」として図書館はどうあるべきかを論じたものである。時代を色濃く反映した文章だが、論点はいまでも色あせていないし、現実社会の中で

の図書館の基本的な立ち位置とその役割を論じたものとして、むしろいまこそ再読されて然るべき文章のように思える。

その要点を現代風に言い換えれば、市民生活に重大な影響を及ぼすような政治的・社会的課題に直面したとき、市民が自ら考え、判断し、行動するために必要な資料・情報を、「賛成論も反対論も中間論も平等に」提供し、「話し合いの場を作り、世論の形成を助けること」が図書館の仕事であり、そういう仕事は「静かな地道な実践において、実現されるべきものである」ということになろう。

この一文に続いて、有山氏は翌1961年1月の「図書館雑誌」にも、「社会と図書館—再度『図書館は何をすところか』』という文章を寄せている。そこでは、冒頭で次のように書いて、殊更に「単なる個人」と「図書館員としての個人」を峻別するよう

に促している。「図書館はその背後にある社会から生まれ、社会によって規制される。従って、図書館はいかに在るべきか、ということは社会の現実から決定されるべきものである。／(中略)／その場合、社会的現実をどのように、そしてどのようなものとして受け止めるかは、図書館員の判断によらなければならない。ここにおいて図書館の個人が問題となって来る。／しかし個人が問題となると言っても、それはあくまで『図書館』員としてであり、図書館という職域、存在物をはなれた単なる個人ではないはずである。このところを若い人達は混同し易い。今私が取り上げているのは、図書館としての現実に対する反応であって、それをはなれた単なる個人の反応ではない。」

前年に発表された文章に対して何らかの反響があって、改めて筆を執ったものかと思われるが詳しい経緯は分からない。しかし、“革命前夜”を思わせるような騒然たる情勢の中で、氏の説く資料・情報提供に徹する図書館、または図書館員のあり方を、いかにも「卑怯な保身的態度であり」、「消極的な逃避的な存在のように」受け取る向きもあったのではないだろうか。

翻って、現在の状況は規模も内容も有山氏の時代とは異なるにせよ、本質において同じ議論が成り立つように思う。昨年末に多摩地域でも、図書館関係者による特定秘密保護法に反対する声明がインターネット上で公にされた。私自身、一個人として考えを同じくする意思を伝えたが、同時にこうした状況に対して、図書館として先に有山氏が説いたような意味での「静かな地道な実践」が、果たしてどれだけの図書館でなされているだろうか、という疑問も伝えた。

特定秘密保護法を考えるために関連資料を集め

た特設コーナーを作るとか、各新聞ごとの記事をファイルにして閲覧に供するとか、有用な情報を発信するサイトの一覧を作成するとか、いくつか図書館本来の業務としてできることはあるはずだ。しかし残念ながら、私の身近な図書館では、そのような試みは見られなかった。

図書館長としての経験からすれば、そのような実践を行うには、それなりの準備とある種の覚悟がなければできない。不用意に行えば、公立図書館があたかも一定の方向に世論を誘導していると誤解されかねないからである。まして日常何もしない図書館が、ある日突然、特定の政治課題をクローズアップしたりすれば、なおさらである。

常日頃から、図書館とは何をするとところかということ職員が話し合い、それを折に触れて具体的な形で市民の前に示す。そういう「静かな地道な実践」を一步一步積み重ねることが、いままさに求められているような気がするのである。

例えば、憲法や原発、被災地の現状、TPPなど、マスコミでしばしば耳にはするけれど、改まって中身を問われれば正確にはよく知らないという事柄が実は多い。そういうテーマについて、賛否両論を含めた本の解説付キリストを作って配布するという程度のことなら、わりとすぐにできるのではないか。

人手がないのは解る。だがそれを理由に、そういう自覚的な実践をせずに、漫然と資料を並べているだけの図書館でいいはずがない。それこそ、委託や指定管理の図書館では、なかなかできないことではないだろうか。(会員)

*有山氏の文章は、『有山崧著作集1』日本図書館協会(1970年)／『個人別図書館論選集 有山崧』前川恒雄編・日本図書館協会(1990年)に所収



あたらしい年を迎えて ～抱負を寄せてもらいました！～

昨年暮れ、1月15日発行予定の会報181号に2014年の抱負を書いてくれるよう会員の皆様に依頼し寄せていただいた文章です。編集担当のパソコンが壊れてしまい、大幅に遅れての発行となりましたが、そのまま掲載させていただきます。

今年こそは、書簡集を刊行！

手嶋 孝典

今年こそは、長年の懸案となっている『浪江虔・八重子往復書簡集』(以下、「書簡集」)を刊行した

いと思っている。

町田市自由民権資料館で開催された「浪江虔・八重子と私立南多摩農農村図書館」展(2003年10月25日～12月7日)がきっかけとなり、「書簡集」

を出したいと考えるようになった。しかし、当時は公私ともに多忙だったため、実際に着手したのは、2008年5月になってからだった。

『書簡集』刊行委員会の立ち上げを「町田の図書館活動をすすめる会」(以下、「すすめる会」)で提起し、有志による『書簡集』刊行委員会を結成した。以来、18回にわたって刊行委員会を開催し、委員会のメンバー以外の協力も得ながら、幾多の作業を経て何とか形にする直前までたどり着いた。しかし、私の怠慢により、3年近くに及ぶ空白期間が生じてしまい、協力してくださった皆様にご心配とご迷惑をお掛けしたことを申し訳なく思っている。

現在は、ようやく原稿の体裁が整い、刊行を引き受けてくれる出版社が決まった段階である。採算を度外視して刊行を引き受けてくれた奇特な出版社は、『ず・ぼん⑤』で「[特集]破天荒な図書館人浪江虔」、『ず・ぼん⑥』で浪江虔の追悼記事等を組んだポット出版である。

「すすめる会」には、1月の例会で定価3,200円、総刊行部数500冊の内、200冊購入することで承認を受けたが、その前に、「果たして3200円を出して買ってくれる人が私の周りにいるかどうか・・・一般のごく普通のたくさんの人達に読んでもらいたいと思っていたので売るのは難しいのではと思います」という刊行委員会のメンバーの意見もあるということポット出版に伝えておいたので、定価を下げた新たな提案があった。しかし、その提案を知ったのは定価3,200円で200冊購入する案が「すすめる会」で承認された後だった。定価は低く設定されたものの、350冊購入するという提案だったため、受け入れることはできなかった。しかし、改めてポット出版と交渉した結果、定価2,400円で300冊購入することで話がまとまった。

まだ、ポット出版と「すすめる会」との間で契約書を締結するまでには至っていないが、購入代金の支払い、本の引き渡し後1か月以内という契約になりそうなので、少しでも多く販売したいと思っている。「書簡集」の「あとがき」には、「この『書簡集』を一人でも多くの方にお読み頂き、戦時下の人間がどういう状況で生きなければならなかったかに思いを馳せてくだされば、発起人としては幸いに存じます」と書いた。

完成まで紆余曲折があるとは思いますが、昨年末以来、何とかここまで漕ぎ着けたという感慨に浸っている。刊行時期については、まだ決まっていないが、一日も早く刊行したいと考える次第である。構想から10年以上経過しているが、ようやく夢がかんう日が近づきつつある。

あの時代を感じる

野沢陽子

昨年、岩波書店の月刊誌『世界』に連載された「未完の戦時下抵抗」が今年の夏、単行本になる(田中伸尚著・岩波書店・タイトル未定)。「図書館に抛る浪江虔」「屈せざる人細川嘉六」「<土の器>のキリスト者鈴木弼美」ほか戦争国家に抗った人びとの物語を読み、改めてあの時代を肌で感じることが今、重要だと思う。

父・浪江虔に関しての取材を受けて以来、田中氏の著書を少しずつ読んでいる。『大逆事件・死と生の群像』(岩波書店・日本エッセイストクラブ賞受賞)を始め、『ルポ良心と義務―「日の丸・君が代」に抗う人びと』、『日の丸・君が代の戦後史』、『靖国の戦後史』、『憲法九条の戦後史』(以上、岩波新書)、そして今『ドキュメント昭和天皇』全8巻(緑風出版)の5巻目「敗戦(下)」を。

戦争へと突き進んでいった状況、社会や人物、加害と被害を、膨大な資料を読み込んで克明にそして鋭い視線で描き出している。けれども、弱き者、庶民や一般の兵士には温かい眼差しを向けて…。

『世界』の連載がきっかけで思わぬ出会いがあった。金沢時代の友人が、感想とともに教えてくれたのが反戦川柳作家鶴彬(つるあきら)だ。

<万歳とあげて行った手を大陸へおいて来た>

<胎内の動きを知るころ骨がつき>

<手と足をもいだ丸太にしてかへし>

友人の住む石川県かほく市高松町出身で、生誕100年にあたる2009年に町をあげて映画が作られた(『鶴彬こころの軌跡』神山征二郎監督)。検挙されても、招集されてもなお意志を貫いた、その29年の生涯を描いている。

さらにもう一つ、偶然度と同時期に東京拘置所にいた自由律俳人橋本夢道(むどう)を描いた本『橋本夢道物語―妻よおまえはなぜこんなに可愛

いんだらうね』(殿岡駿星著・勝どき書房)を、音訳のことで交流のあった著者から贈られた。
<大戦起るこの日のために獄をたまわる>
<うごけば寒い>
<足かけ九年宮本顕治はここにいる私の房の前>
など 300 句を獄中で密かに作句し持ち出した。
今、町田音訳グループ・朗奉で、視覚障害者向けの録音図書を作成中、完成間近となった。

図書館職員としての実践を増やしていきたい

石井 一郎

昨年は図書館に戻り、慣れることを重視してきた。展示やおはなし会など初めてした。今年はその経験を踏まえ、少しずつブックトークや講座などを試みてみたい。

私的には、レファレンスの勉強会に 20 年近く参加してきたのをまとめてみたい。

(仮称)町田市立忠生図書館担当の一員として 頑張ります 高松 昌司

2015 年 5 月に町田市では鶴川駅前図書館につき 8 館目となる(仮称)町田市立忠生図書館が開館する予定です。これは忠生市民センターにあった図書室を今回の建て替えにおいて図書館機能を持たせ、地域図書館の一つとして開館するものです。図書館エリアの床面積は約 1,200 m²、収蔵冊数は開架 7 万 5 千、閉架 2 万 5 千で合計 10 万冊で計画されております。この規模はさるびあ図書館、鶴川駅前図書館とほぼ同等のものになります。

(仮称)忠生図書館は以下の 3 本を柱としたサービス方針を策定しています。

I. 世代を超えて交流のできる図書館

各世代が気軽に声を掛けあうことのできる空間作りをします。

II. 忠生地域密着型の図書館

地域の情報収集をします。地域の公共施設との連携しての情報発信をします。

III. 子ども読書活動推進計画のモデル図書館

地域の小学校、中学校と連携し、児童サービスを充実させます。

この 3 つの方針に基づき、私は現在準備担当の一員として去年の 4 月から資料の収集、図面の調

整などを中心に行ってまいりました。

今年はそれだけでなく設備の調達、具体的なサービス展開などについて本格的に準備してまいります。今年が大事な一年として図書館の皆で頑張っ
てまいりますので、皆様のご支援・ご協力いただきますよう よろしく
お願い申し上げます。

一陽来復と図書館

多田美恵子

今年も無事に年が明けた。年の始めにささやかながらベランダからご来光を仰いで手を合わせる。美しい夜明けの瞬間から待ちかねた静かで力強い陽光だ。今年、私にとってもしかしたら一陽来復の時かも知れないと、過越した年を払拭することにする。そして、穏やかな年明けに心から感謝した。

年末年始に読みたいと思って町田の図書館から欲張って借りてきた本を眺めながら今年も図書館が私の心の支えの一つになってくれるのだろうかと思春を思う。さるびあ図書館を長年利用させて貰い、前庭の桜の木が満開になる頃、毎年、万感の思いを込めて見上げてきたのだ。図書館はいつでも私を拒まないし否定しない。子どもの頃、近くに公共図書館がなかったので学校図書室や学級文庫を利用していた。繰り返し読んだ家庭にあった絵本も、かなり自身に影響があったと、時を経てから感じた。今では 1 冊を残すのみとなってしまったボロボロの絵本は幼いころ祖父が買ってくれたものだ。

図書館にはとっくに忘れた時間や、また、未知の世界がある。今、図書館は変革の時を迎えているという。難しいことは私には言えないし正直わからない。ただ、私にとっての図書館は見栄えや派手さ、メディアの注目ではない。いつでもそこであって、いつでも手にとれるもので、決して媚びないものだ。だまって寄り添ってくれる、そんな図書館が私はずっと好きだ。

かえで文庫の発展を願う

伊藤倭子

2014 年夏(7月)から、成瀬センター建替え工事が始まり、現在の文庫仮設場所からも動かなければなりません。

幸い、移設先は成瀬中央小学校が快く場所を

貸していただけることになっていますが、6月の移動に向けて、もう少しずつ準備に取り掛かかっています。永年親しんでいた文庫の蔵書も移動のためには身軽にと、1冊1冊子ども達との思い出と共に、廃棄か保存か迷いながら話合って整理中です。

2015 年秋の新成瀬コミュニティーセンター完成時まで、学校内の場所でのように文庫を活用していただけるか？ そして、2年後の新しいセンター内でのかえで文庫のあり方等……。課題山積の年です。でも世話人一同、相変らずのんびり・おっとり、本と子ども達とおしゃべりを楽しんでいます。

何事もうま〜くいきますように！！

市政に関心を持って

丸岡和代

今年も、自分の大きさをしっかり把握し、無理し

第15期図書館協議会 第4回定例会報告 11月28日(木)15:20~16:45 中央図書館ホール

欠席：館長、委員長、各学校長（学校周辺不審者問題への対応のため）

協議会の前に、館内見学を2時から行い、書庫・選定場所・装備場所・AVの作業スペース・障害者サービスの順で廻った。書庫では1冊1冊本の出入りごとに処理され、除籍しない資料には銀色ラベル、シリーズものには黄色ラベル等で分かるようにし、さらに最終の出庫年度が分かるようにそれぞれの本に小さいメモで年度が書き入れてあった。書庫と障害者サービスで質問が相次ぎ予定より15分ほど超過した。

会議は第3回議事録の確認の後、報告事項に入り副館長が行った。

【報告事項】

・教育委員会(11月1日)の「第7回文学館まつり」の結果報告(文学館)／報告に誤りがあると委員より指摘があり、確認し訂正を教育委員会に申し入れるとのこと。

・その他／耐震補強工事に伴うさるびあ図書館の臨時休館について。休館期間が12月2日(月)から2014年3月末までを予定。実施する業務と改修工事の概要も報告された。

【協議事項】

1. 図書館評価・・・担当者が図書館の見解につい

ないで生活していこうと考えています。

背伸びすれば、きっと大変な状況に追い込まれるのです。元気に動けると思って張り切るとボタンとある日突然に寝込んだりするそんな生活は恐ろしいからです。

自分の年齢は、自分の体の部品の傷み具合をそれとなく示唆しているのだと折に触れ確認の毎日です。しかし2月23日にある町田市長選挙ばかりはほっておけません。私のこれからの暮らしにおおいに影響があると考えます。

市民のことを本当に基本のところでも大事に考えてくれる市長でなくては困ります。

今回は、市政を任せたいと思う候補者にであえて幸いでした。ささやかでも私も応援の働きをして明るい未来を夢みたいと思っています。

て説明し、図書館側の貸出統計誤りを認め、評価の訂正をしている。その他、いくつかの見解が図書館より出た。

2. 地域館見学日程について・・・予定通り実施することを確認。

【その他】

・団体貸出しの登録の期限を個人と同じように3年にして欲しいと要望／図書館側からは検討しますとのこと。検討した結果をメールでもいいから知らせたいと要望した。また、7月の緊急提言についても館長が教育委員会から結果の返事があると思うということだったので、その返事を下さいと発言した。なお、2月まで協議会の定例会が無いので、12月の議会等について報告事項があればメールで流して欲しいと要望し、副館長から了承を得た。

●12月、1月は定例会の代わりに、市立図書館地域館視察を行った。(砂川さんの記事参照)

●次回の協議会は2月27日木曜日15時～17時、中央館6階ホールで開催予定。

傍聴自由、希望者は図書館まで。

図書館協議会委員を引き受けて

砂川とき江

第15期町田市立図書館協議会委員に推薦され、活動を始めてから4回目の定例会が、11月21日に終わりました。

初めに行ったのは、「図書館評価」の外部評価でした。一市民である私が、「A, B, C、3段階で評価」ということに、大きなとまどいと不安を感じました。しかし、過去の評価表や資料を見せていただき、今回は、子どもと本をつなぐボランティアをしてきた経験から、「子どもの読書」や「ボランティア」に関する項目を担当するグループに参加させていただきました。グループ討議や、全体会議を重ね、図書館全体の事が少しずつ見えてきました。図書館職員の皆さんが利用者の立場に立ち、計画を立て、毎年、取組結果を話し合い、外部評価を受ける。真摯で真剣な様子が伝わってきました。また、協議委員のみなさんの「図書館」に対する熱い思いも共通にあります。21日には、バックヤード見学もさせていただき、カウンター業務以外のさまざまな実務を目にすることができました。

昨年12月20日と今年1月23日の2回、図書館協議会定例会のお休みを利用して、地域館と移動図書館、小中一貫校「ゆくのき学園」の図書館の見学をさせていただきました。

山崎図書館、鶴川図書館では、全体の狭さに驚きました。しかし、地域の方々と密接につながり、おはなし会の会場作りに工夫されていたり、手作りのサインなどに職員の方の暖かさを感じました。鶴川駅前図書館は、新しくぴかぴかで、パソコンを操作している人や、学習をしている学生が多くいました。ここでは、児童書のコーナーの書架が高すぎるのが気になりました。金森図書館は、個人的によく利用していますので、とても落ち着けます。おはなしの部屋も、広く独立しているので、落ち着いておはなし会ができると思います。

2回めは、相原方面へ。堺図書館と移動

図書館車(BM)では、相互貸し出しができる相模原市との境に位置していることでの蔵書の工夫などのお話を伺いました。、BMでは、急いで駆け込んできた小学生と一緒に、私も実際に本を借りました。選書は、コースに合わせ、子どもやお年寄りの顔を思い浮かべて、1冊1冊されているそうです。

「ゆくのき学園」の図書館は、1年生から9年生までが共同で利用し、調べ学習の資料は、専門の部屋がありました。また、保護者も借りることができるので、蔵書の幅も広く、理想的な図書館になっています。図書委員は、小学生と中学生が合同で当たるようで、ほほえましい様子が想像できました。

今回の見学で、各館の職員の方々とお会いし、改めて、本を手渡してくださる専門の人がいるという事の重要性を実感しました。

学識経験者でも教育関係者でもない、ただ子どもの笑顔と本と図書館が好きで平凡な1市民の私だからこそできることを見つけて、少しでもお役に立てるように努力していきます。(かえで文庫)

市民にとって本当に

望ましい図書館の姿

図書館嘱託員は生き残れるか!?

町田市立図書館を利用されている皆さんは、いつも接している図書館員の多くが実は嘱託員であることをご存知でしょうか。これは町田に限ったことではなく、全国的にも公立(直営)図書館職員のほぼ半数が非正規職員であるとのデータもあります。今回は「非正規公務員」の問題について造詣が深い講師をお迎えし、「図書館の人」の問題について考えたいと思います。そして、市民にとって本当に望ましい図書館の姿を、皆さんとともに探っていきたいと思います。どうぞ奮ってご参加ください。<無料>

講師 上林陽治さん

公益財団法人地方自治総合研究所研究員。
著書に『非正規公務員という問題』(岩波ブックレット、2013年5月)、『非正規公務員』(日本評論社、2012年8月)、『公契約を考える 自治総研ブックレット9』(共編著、公人社、2010年3月)。

日時 2014年2月23日(日)
午後3時~5時(2時半開場)
終了後懇親会を予定

会場 町田市立中央図書館6階ホール

主催 町田の図書館活動をすすめる会
問合せ 増山 Tel&Fax 042-722-1243



ひろば

例会報告 11/20(水)

- ・16:00～180 号印刷(伊・玉・丸・増・桃)
- ・18:00～20:00 中央図書館中集会室

出席:伊藤、清水、多田、玉目、手嶋、前田、増山、丸岡、目黒、桃沢、山口

・上林陽治さん講演会について(手嶋)

「非正規公務員」、とりわけ図書館嘱託員を巡る諸問題を中心に図書館の非正規公務員問題に特化して講演をお願いします。(p7参照)

・竹信三恵子氏講演会は、9/ 13(土)頃を予定。

図書館に特化しない日本の雇用問題やワークシェアリングについても話をしてもらいたい。上林さんの講演会が終わってから、詳しいことを決めたい。

・岡山図書館見学日程/3/12～16 日の間で田井さんのご都合を伺う(⇒3/13(木)・14(金)に決定)

・団体登録利用者懇談会(増山)[11/14(木)於:さるびあ図書館]/図書館側は全館の児童担当が出席し、尾留川館長より図書館の利用状況や今後の動き、2015年5月忠生にオープン予定の図書館についての話を伺う等、図書館を知る良い機会なのだが毎回出席は団体登録数 184(地域文庫 15、読書会 54、幼・保園 24、小・中校 47、学童保育ク 18、その他 26)の内 1/10 団体程度。もっと出席率を上げる工夫が出来ないものか、形骸化しているように思う。

例会報告 12/18(水) 18:00～20:00 中集会室

出席:石井、伊藤、黒田、清水、多田、玉目、手嶋、増山、丸岡、目黒、守谷、山口

・つづき図書館ファンクラブ若杉代表より、都筑区に建設予定の複合施設の参考に、町田の複合施設ポプリホール内に図書館が作られた経緯を知りたい旨連絡があり見学を希望。日程は、経緯を知る鈴木真佐世さんや守谷さんの都合等から、1月15日(水)に。合わせてすすめる会との交流会を希望、定例会前の1時間を設定する。

・第3回まちだとしょかん子どもまつり(3/27(木)～30(日))/すすめる会では、30日10時30分から中央図書館ホールで広瀬恒子さんの講演「どの本読もうかな!」を開催する。実行委員会全体では、「お話し会」、「ビブリオバトル(本の紹介コミュニケーションゲーム/司会は和光大学の宮本臯さん)」、異文化を楽しむ「絵本で国際交流」等を企画開催する。
(詳しいことは、3月初めに出すチラシをご覧ください)

2014年度 第11回 文学館(主催)で楽しむ

おとなのためのおはなし会

2月20日(木)10:30～11:30

町田市民文学館 2F大会議室

プログラム (通算 82回)

- *町田ゆかりの作家「山本典人」 佐羽悦子
- *魔法の馬(ロシアの昔話) 増山正子
- *おそばの茎はなぜ赤い(日本の昔話) 原 忍
- *日暮れのお客 (安房直子作) 西村敦子

語り手はNPOまちだ語り手の会会員

直接会場へどうぞ! 無料 保育有

(町田市民文学館 ☎042-739-3420)

・おはなし会は、図書館の本と子どもを結ぶため/地元のボランティア団体が、子どもたちを図書館に誘う一貫になればと、鶴川駅前図書館のおはなし室を借りてやろうとしたが、ボランティア団体には貸さないとの事。仕方なくポプリホールの会議室を借りてやったが余りにも室料が高い(≒3000円)ので、今後はやれない。地域館によっては、ボランティアに貸しているところもあり、不公平ではないかという声があった。おはなし会は個人の発表会ではない。「今日のおはなし会は〇〇文庫担当です」として、少しでも多くの子どもが図書館に足を運ぶ機会を増やす催しの一つとして捉えて欲しいものだ。

・六分会組合のすすめる会担当は、持ち回り制にした。次回は中央図書館の職員が出席する。

お詫び&あとがき 購入時から不調続きだったパソコンが3年目で音を立てて動かなくなった。修理に出している間、のんびりできるのではと喜んでいたら、文明の利器にすっかり頼り切っている生活は、結局仕事量も増え不便極まりない期間となった。そのため、1月例会時に出す本号が大幅に遅れてしまい、寄稿して下さった皆様に申し訳なく思っている/この間、世の中はめまぐるしく動き、特定秘密保護法も制定され、2月9日には急きょ都知事選が行われた。元首相2人が3.11の原発事故により、原発推進をしてきたのは誤りであったと深く詫びて、原発のない国にしなければ日本に未来はないと、町田の街頭演説で訴える姿を見て、本気だと思った。が、残念ながら今の自公組織勢力には負けてしまった。「マスメディアは政府の広告塔である。その情報を鵜呑みにして原発を許しているとアメリカの核の最終処分場にされ、自分たちの国が核の捨て場になってしまい、日本人は減びてしまうがそれでもいいのか、それだけ日本人は自虐的なのか、今はそういう岐路に立っているのですよ」と、アメリカ人であるA・ビナードが必死の様相で語るのを新年早々聞いていただけに、50%に届かなかった投票率に真に危機感を持った。子どもたちや自分の生活を他人任せにはいけない。2月23日は町田市長・市議選だ。投票率が市民の賢さを物語るという。未来を託せる人に1票を投じよう! (M4)